

新教科「情報」を活用できる入学試験

立命館大学では、2025年度より共通テスト併用方式および共通テスト方式で大学入学共通テストの「情報Ⅰ」の得点を活用できるようになっています（一部の学部・学科等や科目・教科型を除く）。2026年度入試からはそれに加えて、2月7日実施の学部個別配点方式で、本学が独自に作成する「情報」を課す入学試験方式「学部個別配点方式（情報型文系／情報型理系）」を一部の学部・学科で実施します。

\New/ 学部個別配点方式（情報型文系 / 情報型理系）

導入学部と科目概要は以下のとおりです。配点は学部により異なります。P.18～51の各学部ページを確認してください。「情報型文系」、「情報型理系」とともに「情報」の出題範囲は「情報Ⅰ」であり、試験問題は同一です。

「学部個別配点方式（情報型文系）」

●学部：経営学部経営学科、総合心理学部、スポーツ健康科学部、食マネジメント学部

英語 + 国語 + 情報

（国語は漢文の独立問題は出題しません。各教科の出題範囲の詳細は15ページを確認してください。）

「学部個別配点方式（情報型理系）」

●学部：デザイン・アート学部*、映像学部、情報理工学部

*2026年4月開設に向け設置届出予定。内容は予定であり、変更する場合があります。

英語 + 数学 + 情報

（数学の出題範囲は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B（数列）、数学C（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）です。各教科の出題範囲の詳細は15ページを確認してください。）

共通テスト「情報Ⅰ」を活用できる入試方式

共通テスト併用方式

共通テスト併用方式は、本学独自試験2教科と、各学部が指定する大学入学共通テストの科目（「情報Ⅰ」を含む）の得点を合わせて合否判定を行います。大学入学共通テスト受験後にも出願できますので、大学入学共通テストの自己採点の結果を踏まえて出願を行うこともできます。

共通テスト併用方式で大学入学共通テストの「情報Ⅰ」を活用できるものは以下のとおりです。

●共通テスト併用方式「情報活用型（文系）」：産業社会学部、経営学部経営学科、映像学部、食マネジメント学部

●共通テスト併用方式「6教科型」：経済学部国際専攻

●共通テスト併用方式「情報活用型（理系3教科）」：情報理工学部

●共通テスト併用方式「情報活用型（理系4教科）」：理工学部、生命科学部生命情報学科

（各学部の試験科目等の詳細は、18～51ページで確認してください。）

共通テスト方式

立命館大学では、共通テスト方式を実施する全ての学部で大学入学共通テストの「情報Ⅰ」を活用できます。

共通テスト方式は、学部によって大学入学共通テストの「情報Ⅰ」を活用できる科目・教科型等は異なります。また、同一学部内でも、受験必須科目や高得点採用科目がことなりますので、P.18～51の各学部ページを確認してください。

*情報理工学部、理工学部、生命科学部、薬学部には高等学校等での履修に関する出願要件があります（12ページ参照）。

立命館大学独自試験の「情報」はどんな問題？

「情報」の出題方針と学習のポイント

〈出題内容・形式・配点〉 出題範囲：「情報Ⅰ」

内容	形式	配点	試験時間
I 情報技術全般	マークと記述を併用	30	80分
II アルゴリズム	マークと記述を併用	25	
III データの活用	マークと記述を併用	20	
IV プログラミング	マークと記述を併用	25	
合計		100	

*合格点が各学部（専攻等）および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

【出題の基本方針】

我々の生活を支える情報サービスの提供や活用には、情報技術に関する高度な知識を持った人材の育成が欠かせない。このため、高等学校でも情報技術を学ぶことが重要になっている。本試験では、高等学校で学ぶ情報Ⅰの範囲における基礎的な内容の理解の程度を問うことで、文系理系を問わず本学で学ぶために必要な知識や論理的思考力などを評価することを目的とする。そのため、用語暗記を確認する類の出題は控えめに、与えられた問題文から読解力と論理的思考力に基づいていかに解を求められるかを問う出題に重点を置くことを想定している。

- I 情報通信ネットワーク、情報セキュリティ、データの分析、論理回路に関する基礎知識をもっているかを確認し、さらに知識を活用して解を導く力を問う。
- II 並べ替えの基本概念、およびそれを実現するアルゴリズムを考えさせることで、論理的思考力を問う。
- III 問題解決のためにデータを整理および活用する能力を問う。
- IV 問題解決の方針を与えた上で、プログラムの作成能力を問う。

【学習のポイント】

- ・高等学校で学ぶ情報Ⅰの各単元において、さまざまな情報技術に関する基礎知識を身につけておくことが重要である。このためには、教科書による学習を基本とし、そこに現れる用語の概念を理解し、正確に答えられるようにしておくことが望まれる。
- ・用語を暗記するだけでなく、用語の持つ意味を理解することを心がけること、知識の応用場面に常に意識して学習することが大事である。これにより、情報技術に関する知識をさまざまな場面で活用できるようになる。
- ・大学で学ぶ専門分野では、文系理系を問わず与えられたデータやそれを加工した情報から、問題解決の方針を立てることが求められる。入学試験問題においては、問題文の中で一定の状況を設定し、その読解から問題解決の方法が誘導されるようになっている。そのため、文章を正しく読み解く力と論理的思考力が問題解決のためには必須である。文章全体から、何が与えられているのか、解として何を求めればよいのかを見つけ出し、問題解決の方針をいち早く考えつことが重要である。そのためには、本質的な部分を残して問題を単純化・抽象化するモデル化の方法、問題を解決する手順であるアルゴリズムに普段から慣れておくことを勧める。なぜこのデータを収集するのか、なぜこの方法でデータを整理するのかを常に意識しながら、練習問題に取り組むことが重要である。
- ・プログラミングでは、プログラムの基本構造として、順次実行、選択（分岐）、反復（繰り返し）の概念、およびそれらの記述方法を理解しておくことが必須である。変数、代入、配列、関数といったプログラムの基本要素についても十分に学習しておくことが望まれる。そのためには、完全なプログラムを作成することを最初から目標とするのではなく、与えられたプログラムを理解することから始めるのがよい。プログラムを読んで、どのような順番で各命令が実行されるのか、変数の値がどのように変化するかを追跡することで、最終的にプログラムが何を計算しているのかを示せばよい。たくさん数および種類のプログラムを読むことで、プログラム作成の能力は確実に向上する。
- ・現状の情報技術をより発展させる取り組みに数学の知識は欠かせない。数学科目についても学習を怠らないことが重要である。
- ・文章の読解力や論理的思考力を判定するため、問題文が長くなることがある。長く構造化された文章の読解に慣れておくことが大事である。
- ・情報科目を用いた入学試験は端緒についたばかりである。このため、大学入学共通テストをはじめ、各大学の入学試験問題や試作問題を自ら積極的に収集し、解いてみることを勧める。

「情報」科目に関する情報公開やイベントも実施します

立命館大学の入試情報サイトに、2月7日の学部個別配点方式で実施予定の「情報」科目に関する特設ページを開設します。特設サイトでは、以下のようなコンテンツを公開予定です。

- 「情報」科目の試験問題例を公開します（6月中旬を目処に公開予定）
- 独自試験「情報」科目の対策動画や解説動画を公開します。（9月以降順次公開予定）

また、オープンキャンパスや立命館大学の入試イベントにて、「情報」科目の試験に関する解説や説明会なども開催予定です。

詳細は▶▶▶立命館大学入試情報サイトをチェック!

